



視座



一般財団法人運輸総合研究所 評議員
前内閣官房国家安全保障局 国家安全保障参与
元マレーシア駐劄特命全權大使

宮川 眞喜雄
MIYAGAWA Makio

新たな対立の時代と アジア

ベルリンの壁が壊され、歓喜と共に始まった冷戦後の世界、核の脅威を忘れることのできた時代は数年前に終わりを告げ、世界はまた新たな対立の時代に引き戻された。その時代の特徴は、米ソ冷戦期と次の諸点で異なる。

第一に、冷戦のまま推移する保証はなく、熱戦に発展する恐れがある。第二に、対立軸は米ソではなく米中で、それに伴い対立のフロントラインは欧州から、極東・西太平洋という我が国近傍に移った。第三に、戦略空間は陸海空から宇宙に広がり、サイバー空間に忍び込んでいる。

第四に、無人兵器の出現で平時と戦時の仕切りが曖昧になり、サイバー空間では攻撃・防御の区別が希薄となって、専守防衛は意味を持たなくなった。第五に、両陣営は経済的相互依存関係にある結果、経済安全保障の手段が抑止力に貢献する。軍民の連携、政府と産業界との協力が不可欠となっている所以である。

20世紀初めまで、諸国家は自ら武力を涵養し、勢力均衡を通じ平和と安全を守っていた。しかしシュテファン・ツヴァイクの言った「40年の平和」も世界大戦に発展した反省に立って、国際連盟、国際連合による「集団的安全保障体制」が構築整備された。ところがロシアのウクライナ侵攻は、国際の平和と安全の主たる守護者の地位を与えられた国連安保理常任理事国の一国が、武力を用いて違法に他国を侵略している実例だ。もう一つの安保理常任理事国も他国の領域に侵入し、武力を以て一方的に現状の変更を企てている。そしてそれら両国の首脳は「天井のない協力」をすると手を握りあった。

集団的安全保障体制の機能低下が懸念される時代、対立の frontline に立っている国は、その機能回復に尽力する一方で、「 balan

スオブパワー（勢力均衡）による平和の確保」という手段も併せ追及せざるを得ない。それは合従連衡の結果としての偶然的平和だという批判はあるが、代替的方策のない状況下では、実践的で現実的な補完的手段の一つとなる。

そうした厳しい安全保障環境に直面している我が国において、政府は2022年暮れ、国家安全保障戦略を発表し、その中で、「我が国周辺では軍備増強が急速に進展」し、「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境」にあるとの認識を示した。その認識に立って、「主権と独立、国内・外交に関する政策を自主的に決定できる国であり続ける」、「有事の発生を抑止、脅威が及ぶ場合にこれを排除する」との抑止力を強化する方針を内外に宣明した。

経済安全保障が抑止力の一翼となる今の時代には、輸送網、電力網、通信網、港湾や空港などの多くの経済基盤が戦力化される。武器技術はデュアルユースで、ロシアの軍事専門家は、「ハイブリッド戦争」と呼称した。基幹インフラの強靱化、経済の成長戦略、戦略物資の部品供給網の確保、先端技術の開発、技術者の養成、戦略的に重要な土地などのインフラの確保など、多くの経済活動が安全保障戦略を支える要素となる。防衛装備の国産能力も防衛力そのものである。

過去数十年の間に我々のアジアは急速に成長し、政治的にも経済的にも世界の一極を形成するようになった。しかしその喜ばしい成果も安全保障に失敗すれば、成長の果実を一気に失うことになる。アジアの人々の英知が求められている。

宮川 眞喜雄 みやがわ まきお

1951年京都市出身、東京大学工学部航空学科宇宙コース卒、英オックスフォード大学国際政治学卒（博士号取得）。外務省法令班長、北米第二課及びロシア課首席事務官、経済局及びアジア大洋州局で課長、気候変動交渉担当審議官、軍縮不拡散科学部長、中東アフリカ局長を歴任。在英及び在マレーシア大使館並びに在ジュネーブ政府代表部に勤務。元駐マレーシア特命全權大使、前内閣官房国家安全保障局国家安全保障参与。東京大学及び政策研究大学院大学で教鞭。日本国際問題研究所所長。著書「Do Economic Sanctions Work?」、「経済制裁」、共同訳書「同盟の力学」、その他論文など多数。